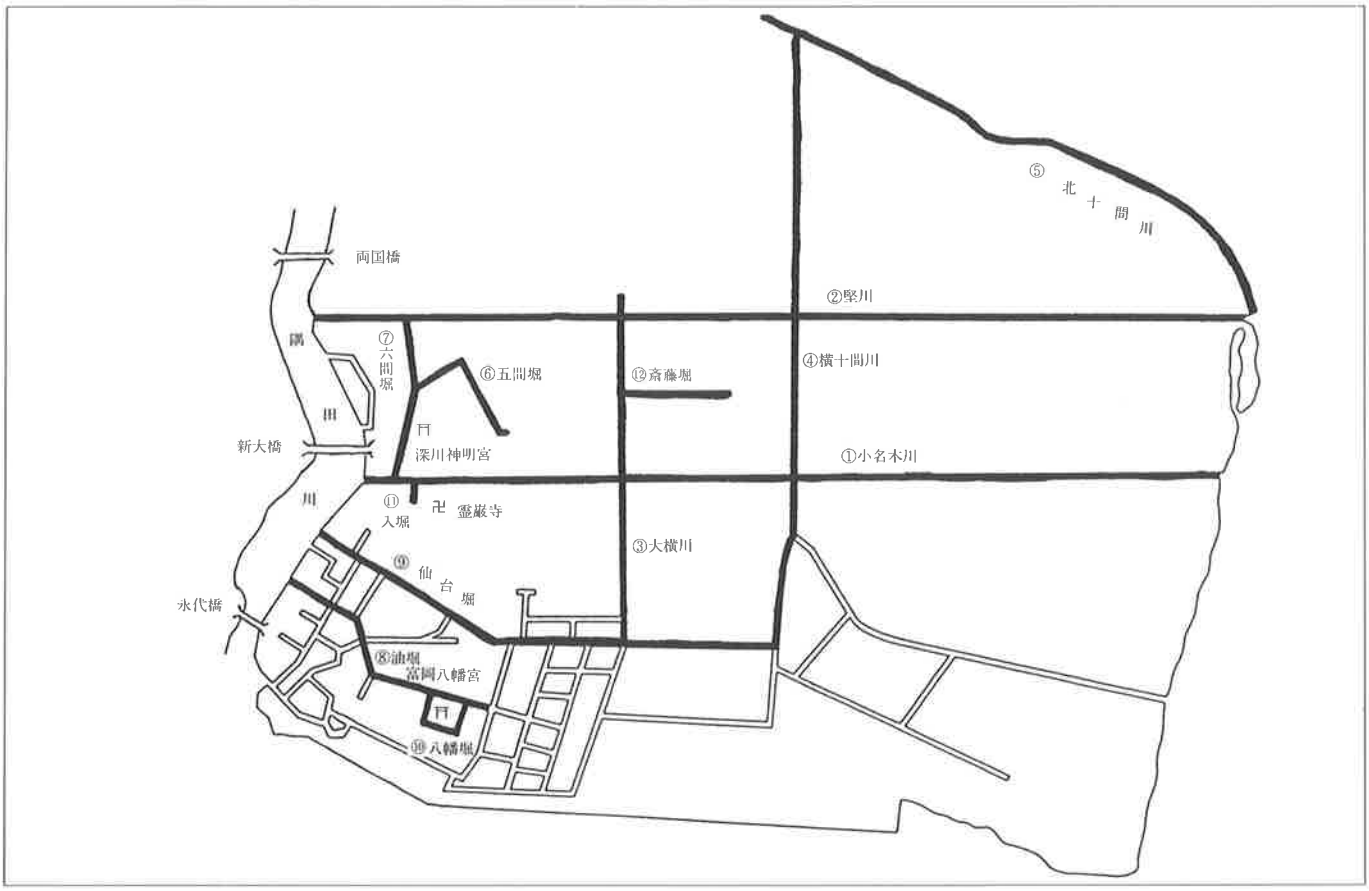
資料館ノート　第10号　　平成９年７月16日発行

深川の掘割

江東区深川江戸資料館



1.深川の開発と掘割

江東区は東京で１番橋の多い所といわれます。それだけ運河（河川）も多かったわけで、これらのほとんどが江戸時代に開削されたものでした。

明暦３年（1657）に起きた大火は、江戸市中はもとより、その被害は本所深川にまで及びました。幕府は大火ののち、江戸の市街地拡大に着手し、隅田川以東の本所深川地域の開発が行われました。すでに掘られていた小名木川に加え、万治２年（1659）より堅川・横川・横十間川・北十間川の開削工事と両国橋の架橋が行われ、道路や橋も整備されました。

2.町割の発展と掘割の整備

寛永６年（1629）の深川猟師町の誕生は、町割が発展する基となりました。

さらに、行徳の塩の運搬を目的で開削された小名木川がある程度完成し、その河岸を利用して、干鰯（ほしかば）場（海辺大工町）などが作られました。

こうして、深川に掘割の沿岸を中心に町場が形成され、物資の貯蔵地として次第に定着します。深川は江戸湾に面し、隅田川の河口にあたり、さらに隅田川をはさんで大店の並ぶ日本橋にも近かったことから、倉庫地として適した場所となりました。

そのため、各地より米などの物資が整備された川や掘を利用して運び込まれ、やがて江戸の全国的商品経済に大きくかかわりを持つようになりました。

明暦の大火後、深川は水運による物資の集散地として大きく発展を遂げ、さらに倉庫地としての掘割が整備・充実していきました。

3.木場と掘割

寛永18年（1641）の江戸大火で神田・日本橋から木場が今の永代・福住・佐賀に移転してきます。この付近は猟師町を中心に張り巡らされた掘割があったことから、材木の運搬としても利用することができ、これらと材木置場とを結ぶ掘とあわせ水運による物資の流通が盛んになりました。

元禄10年（1697）から江戸の塵芥によって深川永代浦の干拓約15万坪を埋め立て木場町がつくられると、町中に筏などの材木運漕のために縦横に数条の掘割を開削し、猿江より木場が再度移転してきました。この掘割は各河川に直結しており、材木を迅速かつ大量に江戸に供給することが可能になり、深川の繁栄に大きく貢献しました。

4.深川の河川

江戸時代、深川に開削された主な運河について沿革とその周辺の歴史的特徴をご紹介します。

①［**小名木川**］　小名木川は深川ではもっとも古く、江戸幕府開設以前に開削された運河で、天正18年(1590)徳川家康の江戸入城に伴い、当時行徳で生産されていた塩を、江戸城へ運びこむ目的で作られました。また、この川が物資輸送の重要な河川であるため、幕府は隅田川との合流地点に船番所（後旧中川との合流点に移転）を設けました。

②［**竪川**］　隅田川と中川を結ぶ川で、万治２年（1659)、本所奉行徳山五兵衛・山崎四郎左衛門が幕府の命により、隅田川・中川の双方から開通させたといわれます。

江戸城から東側を見て縦に流れる川であるため、この名が付きました。

③［**大横川**］　業平橋（墨田区）から大島川までの川で、万治２年（1659）に作られました。江戸城から見て横に流れ、竪川や小名木川と結ぶのでこの名が付きました。

④［**横十間川**］　柳島橋（墨田区）から仙台堀までの川で、竪川と小名木川の間を江戸時代、釜屋六右衛門・同七右衛門が住んでいたことから釜屋堀とも言われます。

⑤［**北十間川**］　隅田川東岸から斜め東に向かい中川まで通じる川です。大横川などと同じ時期に開削され、川幅が十間で横十間川の北にあることからこの名が付きました。

⑥［**五間堀**］　六間堀と同じ時期に掘られ、深川富川町（森下３丁目）までで堀留めとなっていました。昭和30年（1955）頃に埋立てられました。

⑦［**六間堀**］　小名木川と竪川を結ぶ堀。深川村開拓の頃掘られたもので、寛文11年(1671)江戸図にも記されています。昭和26年(1951)埋立てられました。川幅が六間なのでこの名が付きました。

⑧［**油堀**］　隅田川から木場に至る堀で、木場の材木輸送に大きな役割を果たしました。昭和51年（1976）木場の移転に伴い埋立てられました。資料館展示室にある掘割のモデルとなっています。

⑨［**仙台堀**］　隅田川へ流入する堀で、深川佐賀町上の橋から始まります。幅六間の堀で、名前の由来は、ここに仙台藩主伊達家の蔵屋敷があったことから名付けられました。

⑩［**八幡堀**］　富岡八幡宮を取巻く堀で、油堀の一支流。江戸前期頃は永代島と呼ばれ隅田川河口部の洲でした。昭和49年（1974）油堀とともに埋立てられました。

⑪［**入堀**］　小名木川から白河小学校辺り（干鰯場跡）にあった堀で、元禄13年（1700）に設けられました。

⑫［**斎藤堀**］　大横川の菊川橋から住吉駅付近までの堀。この堀に沿って旗本斎藤氏の屋敷があり、猿江材木蔵へと通じていました。関東大震災後の区画整理で埋立てられました。

ここで取り上げた以外にも、木場の掘割や門前仲町付近にあった黒江川、古石場川など深川を取巻く河川がありました。しかし、現在ではこれら江戸以来の川も交通網の発達や木場の移転を契機にして殆どが埋立てられました。